

英彦の泉

聖母の騎士学園
同窓会会報

☎850-0012

長崎市本河内2-2-2

TEL095-823-4523

FAX095-823-4759

- 第27号 -

— よろしくお願ひします — 黒崎・出津を訪れて

同窓会会長
赤本喜代次



『英彦の泉』、2年ぶりのご無沙汰でした。皆様にはお変わりなくお過ごしのことと思いま

す。前会長の竹内松雄君が天国に召され、また急遽会長を賜りました。よろしくお願ひいたします。私が続けていた教会訪問を書きたいと思ひます。

教会訪問をしてきました。黒崎教会です。県内で神父様とシスターを数多く輩出しています。同窓会の出身者も多数いらっしゃいます。明治30年ド・ロ神父様の指導により聖堂建設を計画。一時中断もあり、計画以来23年の大正9年、子供までがレンガ運びをし、ロマネスク様式赤レンガ造りの見事な教会が完成しました。私の故郷の堂崎教会とよく似ています。昔の信者

の方々の凄く苦勞の上の教会建設でした。と案内板にも書かれていました。先人たちのご苦勞に、頭が下がる思いです。

それからひと山越して出津の遠藤周作文学館を訪ねました。文学館の立地する地域はキリシタンの里として知られており、遠藤文学の原点と目される小説『沈黙』の舞台となったところなのです。文学館からは五島灘に沈む雄大な夕陽や沈黙の文学碑がある出津文化村などが一望できます。素晴らしい景観の場所です。

沈黙の碑には（人間がこんなに悲しいのに主よ 海があまりに蒼いのです）と刻まれています。

遠藤文学にかかわる資料等が沢山備えられています。皆様も一度は訪問されては如何ですか。私が好きな小説は『女の一生』です。若い女性である浦



カトリック黒崎教会（2020年12月に献堂100周年を迎えました）

上信者の一生の物語です。大変感銘を受けました。

同窓会の皆様へ前年度亡くなられた方のご報告です。先輩の竹中様、理事をして頂いた小原秀徳さんです。ご冥福をお祈りいたします。

現在、聖母の騎士高校の生徒募集をNCCテレビ、バスのポスター、教会のポスター掲示等で行っています。先日は木場田先輩、窄口さんと私の3名で、市内の主な教会へポスター掲示のお願いに廻りました。同窓会の皆様、一人でも多くの生徒募集の協力を願ひします。

今年度は同窓会もできそうですね。皆様気軽に参加して下さい。お待ちしております。

原稿を募集します。

●近況報告を兼ねて「英彦の泉」に投稿してみませんか。同窓生ならどなたでも構いません。学生時代の思い出、近況、雑感等々何でもテーマは自由です。出来れば800文字程度にまとめてください。事務局（熊川）へのメール、または、聖母の騎士学園へ送付してください。提出期限は毎年7月20日です。是非、ご協力ください。

●事務局（熊川）のメールは以下です。
marys-knights-union@ymail.ne.jp



遠藤周作文学館（リーフレットより）／長崎市東出津町77番地

ごあいさつ

聖母の騎士高等学校校長
同窓会顧問 崎濱宏美



同窓生の皆さん、母校のことをいろいろとご心配くださり感謝しております。かつて経験したことのない「少子化」の波は、当分の間止むことはありません。故郷の教会でも、20年前ぐらいまでは、ひしめき合うような子どもたちの姿がありましたが、今ではパラパラと数名しか数えられません。学校だけでなく、教会も大きなピンチを迎えていると考えています。

そんな中、今年6月1日付けで発行された「日本カトリック海外宣教者を支援する会」の「きずな誌」に、奇しくも本校卒業生で、南米のブラジルとアルゼンチンで活躍している二人の司祭の記事が同時に掲載されていました。ブラジルの松尾繁詞師は第5回卒業生でコンベンツアル聖フランシスコ会会員です。北島泰治師は23回生で、南山学園などを経営している神言修道会会員です。お二人が遠く離れた異国の地で、神様の道具となって今後とも活躍出来ますようお祈りください。

（※この後にお二人の記事を紹介します。）

聖フランシスコと復活

コンベンツアル聖フランシスコ修道会
司祭 松尾繁詞

アシジの聖フランシスコが生きた時代は、バチカン公会議後のような復活の秘儀についての関心は強調されていないようです。しかし、チェラノのトマス「第二伝記」には、聖フランシスコの最後を詳細に記述しながら、十字架を経て達する「過ぎ越し」が明確に浮かんできます。

死期が迫ったことを知ったフランシスコは、それまで滞在していたアシジの市内の司教館から郊外のポルチンク



ラの教会へ運んでくれるよう頼んだ。

そこは、彼にとってリヴォルトを追われて後、最初の弟子たちと共に祈りと瞑想、神と人々への奉仕を行った場所であり、小さき兄弟会が生まれ、聖クララが剃髪して出家した処、精神的な中心地となっていた。アシジの司教館からポルチンクラ、これは彼の人生の縮図です。「何も自分のものにならない」ことを信条としていたフランシスコにとって、死はキリストに従う者と

して生きるために選びとった清貧の最高峰です。「死は自分のものと言える一切のもの、体さえ取り去る。」「姉妹なる死」と彼は呼んだ。それは10月2日の金曜日であったと言われている。

弟子たちが嘆き悲しんでいると、フランシスコはパンを持ってこさせ、最後の晩餐の時にイエス・キリストがしたように、それを裂いて祝福し、弟子たちに与えた。最期の日、自らの死が近づいたのを知ると、弟子たちを呼び寄せ、近づいて来る生命に対して、神への賛美を大声で歌うように彼らに求めた。弟子たちが歌い終わると、フランシスコは、か細い声で最期の力を振り絞って、神の憐れみを求める詩編142を歌った。弟子たちもそれに和した。「声を上げ、主に向かって憐みを求めよう……」これに続いて「太陽の賛歌を歌うように求めた。称えられよ、我が主、我らの姉妹、肉体の死によって、生きるものは誰も、その手から、逃れることがない。……」

フランシスコはキリストが弟子たちの足を洗ったヨハネ福音書13章を朗読させた。それから、修道服を脱ぎ、粗末な下着姿にしてみようと、むき出しの大地に横たえてもらった。「裸で裸のキリストの後に従い」、自ら無に等しく、何も所有していない者であることを示した。主の過ぎ越しの日を自ら祝いながら……フランシスコは「復

活」を語らない。キリストと同じように貧しく生きました。キリストの受肉の秘儀に、受難に、聖体に、復活し生き続ける神の私たちに對する限りない愛を見えています。彼の死は永遠の命への過ぎ越しであった。フランシスコの死は永遠の命への過ぎ越しであった。フランシスコの死を transitio 「運び移される、移行する」と呼ぶ所以である。（ブラジル―モジ・ダス・クルーゼス在住）

丘の上での十字架の崇敬

神言修道会司祭 北島泰治

引退した宣教神父として日々なんとなく管理人の仕事をしています。今年僕も70歳になります。いたって健康です。もうかつて僕を指導してくださった先輩宣教師たちは天国へ行かれました。今はこの歳でいかに宣教し続けられるかを模索しています。そう言っただけで週2回のグループミサと病人訪問、葬式、週末の家庭食事会、誕生日会と信者さんたちと共に過ごす時間を大切にしています。中でも信者さんに行く巡礼は楽しい時間の一つです。

先日、聖金曜日の日に十字架の崇敬式の司式を頼まれて4時間かけて車でサン・フランシスコ・ハビエル小教区の Serra monje の丘の上でブラジ

ルを眺めながら十字架崇敬の司式をしてきました。この催しを企画したのは昨年創立された神言会の在俗会・信者の会です。僕はその霊的指導者となっています。この日のために教会のメインの十字架を取り外して持って行きました。この丘の上には小さなお御堂がありまして、そこからの景色はとても素晴らしいものでした。

その説教の中で十字架は愛のしるし。そして、その十字架を如何にして自分のこととできるのかをふまえて話をしました。僕のスペイン語がブラジルに近い人たちに分かってもらえるか心配でした。僕はパラグアイに近い方でもっぱら宣教をしていますので。

「……一人の子が学校でいつも友達からの嫌がらせで泣いて家に帰ってきていました。ある日この子はお母さんの顔がどうしてそんなやけどをしているのか、そのために、どうしていじめられなければならないのかと。するとお母さんはアルバムを見せてくれました。そこにはお父さんと一人の美しい女性が写っていました。この人は誰なのかと尋ねると、それはお母さんだと聞かされた。その子が赤ん坊だった時の冬、ふと振り返ってみると坊やがちょうど煮えたぎるやかに手を伸

ばそうとしているところで、急いでその子を抱え上げたのですが、そのお湯はお母さんの顔にかかったのだそうです。お母さんは鏡を見て世を憐^{はかな}んだのですが、でもこの子を一人にしてはいけないと思います。とどまったそうです。それを聞いた坊やはお母さんのお顔のやけどは愛のしるしだということを知りました。坊やはその日以後、学校から泣いて帰ってくることはなくなりました。神様の愛のしるしは勿論十字架なのですね。

十字架を崇敬するときの気持ちについて、長崎での踏み絵のことを思い出します。十字架を踏めば命は助かる。でも十字架を踏まなければ命がなくなる。ある信者さんはそれを拒んだので役人が力づくで踏ませようとしたところ、十字架を抱いてキスをしたそうです。死んでも悔いはなかったのです。このことを日本人の信者さんは今まで語り継いでいます。その思いを今ここで共にしましょう。」

説教の後、信者さんたちは静かに涙と共に十字架の崇敬に臨みました。とても心に残る巡礼になりました。後で聞いたのですが、この丘の上での十字架の崇敬がこれが最初だということでした。来年も招待があれば続けたいと思いました。

(アルゼンチン—ミシオネス州在住)

各地区からの お便り



〜長崎便り〜 最近思うこと

昭和45年卒業 濱崎清治

71才の今、五島の三井楽で麦と芋をつくって、かつて、外海から五島に移住した先祖達の生活を味わっています。体験して分かったことですが、この自然というのは、実にうまく出来ていて、贅沢をしなければ生きていけるということですね。

現代は労働の報酬として賃金を頂き、その対価で生活に必要なものを購入し、生活しています。しかし、150年前の五島に、賃金を払って雇ってくれるところがあつたでしょうか。移住者たちは、浜辺へ行き、貝を採り、磯にびっしりとはりついているカラス貝(ムール貝)等を探り、夕食として食べていたと思います。畑で育てる野菜等は成熟するまで3〜6月かかります。その間の食事として海にあるものを頂く、自然の行動であると考えます。

このような環境の中で育った私の父は、「今、どこどこに行ったら、どんな魚が釣れる」と言って、10月頃、ト口箱一杯にクロ魚を釣ってきたのを覚えています。中でも、部落全体で行うクロ魚の地曳網は圧巻で、冬、真砂についたコケを食べに來たクロ魚を網をうって取り巻き、一網打尽にしていました。それで得た収入は部落全体で分け合い、よい正月を迎える資金としていました。外海から移住してきた私たちの先祖が、作り上げたすばらしい文化だと思います。

しかし、みんなが稼ぎの良い都会を目指し、島を離れて行き、後継者が育ちませんでした。当然、地曳網も廃れていきました。今、五島は潜伏キリシタンの島として世界遺産になっていますが、教会等の建物に触れるだけで、実際の生活を味わうことはできません。

最近思うことですが、「外海からの移住者たちが、私たち子孫に伝えたかったことは何だったのか。」と考えてしまいます。暑い中で芋の雑草を取っていると、時々涼しい風が頬をかすめていきます。こんな時、私は心の中で、「神様、涼しい風をありがとう」と言っています。昭和30年から50年にかけて、7戸の家があり70名の人がいた我が故郷も、今はだれも住んではいません。当時は海に潜ると食べきれないほどのサザエ、タコ、天草が取れていましたが、今は当時の面影はなく、磯焼けで、長いけんをし

た一つ目の海栗だけが、あたりをキョロキョロと伺っています。

こんな光景を見ると、神様は私たちのすぐ傍におられ、自然の恵みを私たちに与えてきたのだなあと思います。私たちは、それを当たり前の自然の恵みと勘違いし、のうのうと生きていたのだなあと考えます。

私が今思うことは、このような生活もあったということを後世の人達に知ってもらい、生きる糧として参考にしたいということなんです。何百年か先に、私の故郷「間伏」に人が住み始めたなら、このクロ魚の地曳網を大事にし、助け合いの生活をめざしてほしいと思います。

それが、聖母の騎士を創立したコルベ神父様の願いと思うからです。

「長崎便り」 孫が母校の壁を 乗り越えた

85才同窓生 木場田友次

1957年2月26日、聖母の騎士高等学校を卒業して、早や65年が過ぎた。しかし英彦山から吹き降ろす風は変わることなく学生時代の記憶をよびおこしてくれる。

3年前、中学2年生の次女の孫から、高校進学について相談に乗って下さいと、電話が入った。(次女はシン

グルマザー)母親も一緒に来るものと思いい、家内は普段よりは手の込んだ食事を準備した。ところが本人だけが現れた。お母さんとは、声をかけると母がいると相談しにくいので一人で来たとのこと。

食事を摂りながら、希望校を単独で決めた経緯を話し始めた。お母さんのお給料が少ないので、少しでも手助けになればいいと思い、スクールバスを運行する学校に決めたものの、お母さんにはまだ話してないので、おじいちゃんから話してくださいませんか、と、たたみかけてきた。人知れず小さな胸を痛めているのを直感した。急な相談で私も戸惑っている。後日改めて話し合いました。すると、約束して別れた。翌日、丸尾中学校の担任の先生に電話をし、聖母の騎士高等学校のオープンスクールに参加申し込みを依頼した。実施当日、母親は勤務で私が同伴した。校舎横のマリア様に一礼し、入室した。生徒と父兄で教室は満席状態。プログラムの進行が進むにつけ雰囲気緩和。笑顔と緊張感をミックスさせ、模擬授業を担当した先生に参加者は引き寄せられた。先生の質問に孫が手を挙げ答えると、正解。皆さん拍手、拍手が小さい。一気に教室が明るくなった。プログラム終了後、父兄同士談笑する姿も見られた。孫も同窓生の学生と言葉を交わしている。

教室を出ようとする私に孫から思わぬ言葉をかけられた。「高校は聖母の騎士に決めてもいいですか。」私は孫の肩を引き寄せ、この学校は爺ちゃんの母校、マリア様と聖コルベが見守っているから安心して勉強が出来るよ。交通費は爺ちゃんにお任せ。孫がほほ笑んだ。光陰矢のごとしと言います。3年生を踏み出した。

春休みに入り同級生と食事会を兼ね、ボーリングに出かけるため立ち寄ったので、そつとお小遣いをポケットに入れた。その夜、楽しんだボーリング大会の報告にやって来た。同級生との話題にも触れた。部活は生徒が少ないので全校生徒が一つの競技を一緒にやっているけど、生徒が多ければ色々な競技を楽しめたのに。いじめがなくてよかった。聖母の騎士高等学校のことを他校の学生たちは知らないと思う。私たちがそうであったように。孫の話聞きながら生徒減に在校生たちも危惧していると、感じた。

同窓生の皆さん、我が母校も全国的な少子化の影響を受け、入学する生徒が激減しています。令和4年に同窓会費を納入された方が90名いらっしゃいます。会員が協力して会員の割に当たる「9名」の生徒を母校に送り出すことが出来ないでしょうか。先ずは適齢期のお子様がいらっしゃるご両親

に、声掛けをお願いします。生の声は伝達の優等生です。母校の発展を祈りながら。

「関東支部便り」 『コロナなんか 吹き飛ばせ！同窓会』 開催しました

関東支部事務局 徳永義雄

毎年6月の最後の土曜日に開催していた同窓会は2019年に開催してからコロナの影響で開催を中止していましたが、同窓会のメンバーから、特に先輩方から開催の要望があり、4年ぶりに開催する事となりました。

同窓会・懇親会に先立って行われる感謝の御ミサは久々に集まった同窓生の元気な姿に感謝するとともに、今年4月に亡くなられたヨゼフ平松弘さんのための御ミサとなりました。司式は赤羽教会主任司祭の平神父様をお願いして行われました。

神父様の御ミサの中でのお話は「赤羽教会の建物がどのようにしてできたのか」。

時は1950年に教会建設が決定し、翌年10月に落成しています。朝鮮戦争で建築資材が乏しい中、そして見積りを大きく超えて完成させた当時の関係者や熱心な信者さんの方々のご苦勞さ

れた話を聞く事ができました。御ミサ後、主任神父様の部屋を訪ねて司式のお礼を申し上げ、当時の建設写真をパソコンで見せていただきましたが、建築業に関わった仕事をしている私にとってはとても興味深い経験でした。

今年の同窓会は久々の開催にもかかわらず26名の参加がありました。杖をつきながら参加された先輩もいれば、遠くは北海道帯広から、山梨は甲府市から参加された方もいらっしゃいました。大神学校で神学生のお世話をされている大神神父様のはからいで、大神学生の中での聖書朗読もしていただきました。が若い新鮮な風を感じました。次回からも是非参加されることを願います次第です。

又、大神神父様のお声がけを頂き二人の神父様も参加していただきました。ブラジルからお帰りになった松尾神父様とイリネル神父様です。松尾神父様はお年が90歳と聞きましたが、懇親会での自己紹介コーナーではしっかりしたお話でユーモアを交えてとてもお元気で、元気の秘訣を教わりたかったですね。

『コロナなんか吹き飛ばせ！同窓会』と意気込んで開催されましたが、まだまだコロナ過で感染を恐れ、お一人お一人にお弁当と飲み物が配られ、比較的静かでおとなしい懇親会となりました。それでも開催した意義は大きく皆

さん満足されたのではないのでしょうか。又来年も開催される予定なので、それまで皆さんお元気でお過ごし下さい。

◆藤澤神父様を訪ねて

今年2月、同窓生の奥様松田さん、岡さんと水浦さん、私徳永が沖縄県うるま市の石川教会に赴任されている藤澤神父様を訪ねました。

5泊6日の旅行で、初日の夜は藤澤神父様の配慮で、沖縄教区の押川名誉司教様と夕食をともにするお恵みを頂きました。司教様とおきのおいしい焼酎を頂き、シスター達が心を込めて作ったご馳走を頂きました。

旅行3日目から3日間は藤澤神父様の石川教会でお世話になることとしました。市街を見下ろす丘の上に司祭館と1階がヨゼフ幼稚園、2階が教会の建物があります。教会の床は昔ながらのタタミ敷きで長椅子が並べられていて、とても懐かしく、毎朝の御ミサではついついタタミにひざまずいて手を合わせる自分がありました。

私たちが教会を訪問したのは2月で年度末、主任神父様でヨゼフ幼稚園の園長を兼務している藤澤神父様には一つ頭の痛い悩み事がありました。幼稚園を手伝っておられたシスター達が本部の方に引き上げ、先生方が足りなくなったのです。そして神父様は祈り、聖ヨゼフ様は願いを聞き入れて元先生

をしていた方を見つけて下さいました。

感謝と喜びに満ちた心境をつづった私への手紙を掲載させていただきます。いつも筆ペンでお書きになり嬉しく拝読しています。

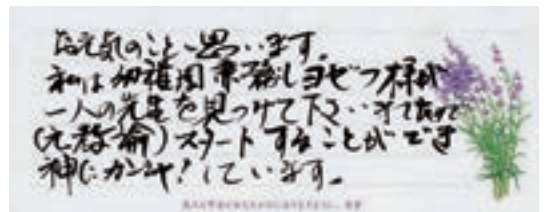
ところで、皆さんに人気がある藤澤神父様はお年を重ねてもまったくお変わりなくともお元気で、教会と幼稚園の仕事をこなしておられます。もちろん、カラオケ大好き神父様で、私たちの滞在中もカラオケスタジオにご一緒していただきました。少しお腹に脂肪がついたような気がしましたが、元気で任務を全うされることを切にお祈りする次第です。

大変お世話になりました。ありがとうございました。

◆伊江島教会と立石さん

ジンベエザメで有名な美ら海(ちゅうみ)水族館の目の前に、真っ平らな陸地にお灸のもぐさをおいたような小山がある島を目にすることが出来ます。そこが伊江島です。

ここにも教会があり、そこに私たちの先輩立石さんが教会を守っています。この教会もシスター達が本部に引き上げ無人の教会となりましたが、押川司教様が立石さんに声がけをし、



赴任しています。

地域の方と野菜作りのお手伝いをしながら交流を深め、お互いに信頼を築いています。教会に招待し洗礼を授ける事だけが布教ではないようですね。

ただいま終活実行中で、立石さんの葬儀はこの伊江島教会で催され、お見送りをされるお客様で教会一杯になる予定だそうです。その中には近くのお寺のお坊さんも入っているようです。

私たち4名の旅行者も伊江島教会に沖縄旅行2日目に滞在をさせていただきましたが、まかないさんがいらつしやるわけでもないので一人暮らしで食事の事が心配です。なにせ食事を作らない人ですから。

このように人知れず頑張っておられる先輩に敬意を示し、知っていただけたらと思います。



【外山祈 新司祭 初ミサ】 2023-07-01 小宿教会 奄美大島

「奄美支部便り」



大天使ミカエル
外山祈 (アキラ) 新司祭

新司祭の祝福を受ける信者さん



聖変化



聖体拝領への招き



力強い
福音の解説

閉祭



アキラ神父さんとカメラマン

派遣の祝福





聖ヨハネパウロ二世とバチカンにて

過去を振り返ることは
将来に対する責任を担うこと

聖ヨハネパウロ二世

新書発刊
頒布価格5000円

「奄美支部便り」

宣教師たちの手紙

カトリック琉球ミッション 訳・編集 押川壽夫司教

1947年から1974年までの沖縄・奄美での宣教の記録(手紙)を収集し
3年以上の歳月を経て原文の翻訳が完成、自費出版が決定となりました。

経過報告

2022年3月、押川壽夫司教様から依頼を受け、聖母の騎士同窓会奄美支部は、奄美大島での頒布活動を開始しました。収益金は大笠利教会の建設資金のためにと言う司教様の特別な意向に従って、本土に在住する奄美出身者にも協力を呼びかけるなど、初期の目的を達成出来ました。収益金は全額、大笠利教会建設資金に充当されました。奄美では、聖母の騎士同窓会が中心となりましたが、その他多くの協力を頂きました。

下記にお名前をご紹介します、ご協力に感謝申し上げます。

(大笠利教会) 新納啓昭

(竜郷小教区) 田下哲朗、励由里子

(大熊教会) 徳田克文

(浦上教会) 永田博道、砂守栄子

(聖心教会) 配山尚幸、池田尚志

(マリア教会) 安田孝春、久保聖一

(小宿教会) 近藤芳弥、

(古仁屋教会) 矢谷次男、貴島喜久子

(事務局) 山田明、田下三佐男

謹呈書本に関して、読后感想を頂きましたので左ページにご紹介させていただきます。

カトリック那覇教区報(南の光明)6月号にも紹介されております。

実録宣教史カトリック琉球列島ミッション(宣教師たちの手紙)は、奄美地区では終了です。

在庫のお問い合わせは、098-863-2020 カトリック那覇教区事務所

【カトリック琉球列島ミッションの読后感想】

昨年11月には、カトリック琉球列島ミッションの謹呈書本を頂き深く感謝申し上げます。

宣教師たちの手紙は実録の宣教史であり実に高尚な素晴らしい書本でした。琉球列島宣教75周年の記念すべき年に出版されたとの事、この良書に出会えたことは喜びとともに神のはからいでなされた大きな恵みを受けたと実感いたしております。その切掛けとなったのは、2022年11月7日の南海日日新聞「ひろば」欄に投稿した私の記事、(宣教史と日記で知る)のご縁がなせる神のはからいでした。全く見知らぬお人Tさんから始良教会のアン神父様を通じてお伝えがあったのがその始まりです。2022年11月8日にアン神父様よりメールがありTさんから本が届いています、との連絡を受け11月13日(日)主日のミサ後に初めてその本を拝受し読み始めたのでした。読んでいくうちに1947年から1974年までの事を細かくよく編集され、500予通の手紙と公文書のやり取りの内容は琉球列島宣教の歴史を具に伝える圧巻の書物であることを知りました。そして手紙の文面等はソフトで内容の簡潔な文章に好感を持ちながら、カプチン会とコンベンツアル会の神父様方の島々に対する並々ならぬ宣教の熱意がヒシヒシと伝わってくることに非常な感動と尊厳を覚えました。素晴らしい本の内容、だ一と読みながら心に思い進んでいくうちに奄美における神父様のお顔が目に浮かんできたのです。1947年頃は神父様方のお名前は全く知らなかったのです。(私は小学校2年生でした)然し、あのとんがりの三角塔屋根と十字架が目立つ聖心教会の正面の建物(初期の)は脳裡に強く刻まれております。また聖心教会正面の左側には車庫と整備工場があり、ジープの姿なども私の記憶には鮮明に残っております。そのころ(1949年)は名瀬聖心教会の近くに住んでおり、教会の広場は子供の遊び場であり、時には聖堂内に自由に出入りしていました。その静かな聖堂内の雰囲気は今になって強く思い出させてくれます。カトリック図書館もすぐ近くにありよく出入りをしていました。あの独特な神父さんの宣教スタイル(茶の修道服と腰の白紐、黒々とした顎髭のお顔)はよく見かけていたのです。いま思えばそれはカプチン会神父さんの正式な修道服だったことを理解するのです。当時はカプチン会とかコンベンツアル会の神父さんという存在は全く知りません。今回、この著書を読むことで得た大きな収穫は自己の啓発に大きく結びついていくことを強く意識しております。勿論、神父さん方の個々人のお名前を存じないしカプチン会の存在も知る由もありませんでしたが、読後にそれらの事も知り得ました。また、その後の時間経過ではゼローム神父さん(コンベンツアル会)の笑顔スマイルは強烈に私の成長過程の中ではしっかりと記憶に残っております。あの微笑みは素晴らしかったです。今、琉球列島ミッションの著書を読み終えて、カプチン会とコンベンツアル会の神父さん方は奄美の峻険な山道とハブ、雨と悪路の自然条件の厳しさと闘いながらも徒歩で山を越えて各集落への福音宣教を成し遂げられて使徒職を全うされた熱意に圧倒されました。特に本書の第3章、第8章～10章、第17章の後段行の数ページ(563頁以降の)は読みながら奄美の現状をしっかりと捉え観察され記述されていることには驚嘆させられました。また全体の手紙文で思うのは語句のソフトな文言は神父さん方の人格を如実に描き出している感じをつくづくと思うのです。昨年の11月13日より読み始めて約5ヶ月余の読書日数となりましたが、それは細かく丹念に読んでいくことで最小限の必要日数となりました。焦らずにゆっくりと読んでいくうちに奄美は琉球の一部であり、一体となるべき宣教地でありその歴史を内在していることを知らされました。何故鹿児島教区に包含されたのか?と疑問に思うのです。復帰という大きな社会的事象はありましたが、宗教の面から考えると、著書は実録宣教史として、沖縄、奄美、八重山諸島のその内実を詳細に記述されております。一方奄美の歴史を知る百科事典としての位置付けも濃厚にあるものと思われます。今回良書に巡り合えたことでその価値を認知させられました。私の座右の書として度々再読に挑み、私の心の糧としてゆきたいと思っております。稚拙な読后感想で恐縮でございますがどうぞ許容頂きたいと存じます。大変遅くなりましたが私の謹呈書本に対する返礼とさせていただきます。全てに有難うございました。感謝申し上げます。

鹿児島、始良教会 吉田良博

【ゼローム神父さま帰天 20 周年忌感謝ミサ】 マリア教会



カトリック那覇教区 押川壽夫名誉司教司式



(共同祈願)

ゼローム神父様に設立準備していただいた希望の星学園は、今年創立 57 年を迎えます。クリストア宣教修道女会のシスター方の献身的な働きにより、これまでに 467 名の子供たちが卒園しました。神父様の大切にされた「わたしの兄弟、しかも最も小さな者の一人にしたのは、わたしにしたのである。」という御言葉を、これからも職員一同、証しつづけたしたいと思います。父なる神様への執り成しをお願いします。

【赤尾木希望の星学園、代読 池田尚志】



聖母の騎士 OB、セミナリオメンバーの殆どが、ゼローム神父さまの尊い声掛けを受けて、長崎の聖母の騎士学園で勉強する事が出来ました。目的は達成する事は出来ませんでした。

お互い違う道を歩みながら、それぞれの教会で自分に出来る役割りを果たし、繋がっています。これからもゼローム神父さまの思いに少しでも近づく行いが出来ます様に！

【聖母の騎士同窓会奄美支部初代会長、 田下幸次】



奄美の宣教に全てをかけられた、ゼローム神父様が天に召されて早二十年、宣教の熱意に燃えてひとり一人に話し掛けておられるような神父様が思い出されます。小さな生命を大切に乳児院から始まって、幼きイエズス会には沢山の働き人を送って下さいました。六十五年前にゼローム神父様に洗礼をさずけて頂いた私は神父様の宣教への熱意を思い感謝のうちに励んでいます。

これからも奄美の私たちが天国から見つめておられるゼローム神父様に感謝しながら最後まで信仰の道を励んで行くことが出来ます様に、主よ どうぞ聖霊を送って、助け導いて下さいますように！

【ショファイユ西仲勝修道院、シスター美島】



神様の手足をなつて司祭職を全うされたゼローム神父様が天の神様の御もとに召されて 20 年が経った今でも、説教台から私たちに熱く語られた事や、病人訪問をされる時のやさしい眼差し等、福音宣教に奮闘されるお姿が鮮明に思い出されます。神父様から見れば私達の信仰は、まだまだ弱くフラフラしている様に見える事でしょう。

どうかこれからも、天国から 「しっかり、しんしょらんば！」と喝を入れて励まし見守って下さいますように。

【マリア教会信徒 岡崎文子】





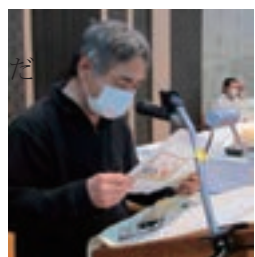
ミサが始まる前に、ゼローム神父様のスライドショー鑑賞



ゼローム神父様について語る押川司教



第一朗読
恵 満二郎
(知名瀬教会)



第二朗読
水野 清哉
(大笠利教会)



福音書朗読 内野神父



オルガン 村田 孝史



共同司式の司祭団

ゼローム館でお茶会
奄美支部の役員
押川司教、押川文隆、
久保聖一、田下幸次、
内野神父、 三佐男



【山間教会の草刈り作業】

2023 春期



矢谷さん、
古仁屋教会



由里子さん、瀬留教会



山田明さん、浦上教会



村田さん、聖心教会



芳弥さん、小宿教会



久保聖一さん、マリア教会



由紀子さん、小宿教会



誰から言われる訳でもなく
呼びかけに応じて集まったメンバー
昔の宣教師の活躍を覚えていた
出来るところからやってみよう
人目に触れることはないけれど

宣教師たちが築いた証しの教会！



～奄美支部便り～

ドイツから再挑戦の報告

ドイツ在住 勅 倫太郎

同窓会の皆様、いかがお過ごしでしょうか？ 去年の10月にイギリスからドイツへ移住して、もう8ヶ月が過ぎました。イギリスに20年近く住んでいたため、少し“ホームシック”になっています。それでも、徐々にドイツの生活にゆっくりとですが、慣れてきている実感もあります。

ドイツ語を喋れない私は、今は主夫をしています。住み始めて直ぐに、新しい国での生活はとても大変なことに気付かされました。例えば、ドイツの食文化はイギリスとかなり異なります。イギリスの料理は、あまり美味しくないイメージを持たれていますが、ヨーロッパのフランス料理やイタリア料理の影響はもちろんのこと、その他にも、インド料理や中華料理などの影響を強く受けています。その為に、イギリスでは沢山の香辛料が安く手に入ります。しかしドイツでは、いくつかの香辛料は高く売られています。その他にも、ソーセージで有名なドイツでは、豚肉はお手頃な値段で買えますが、そのほかの肉類、牛肉やラム肉はとても高くてあまり買うことが出来ません。これらの理由で、イギリスでは作れた牛肉やラム肉を使った料理や色々な香辛料を使った料理が、そう頻繁にはドイツでは出来なくなりました。

ドイツでの日曜日や祝日の過ごし方は、イギリスと比べると結構違います。イギリスでは、日曜や祝日は買い物をしたり、DIYやガーデニングをしたりして過ごしていましたが、ドイツではそうは出来ません。例えば、ドイツでの日曜日や祝日は、カフェやレストランを除いて殆どのお店（スーパーや衣料品店など）が閉まっています。これは法律で決められている様です。その他にも、日曜日と祝日は「Ruhezzeit（休息時間）」と言われて、草刈機などを使ったりして騒音を立ててはいけません。

ドイツでの生活にいち早く慣れるために、移住して直ぐにドイツ語の語学学校に通い始めました。私の通っ



私の住んでいる町バート・クロイツナハは、家が立っている橋が有名です。

ている語学学校の半数の生徒はウクライナ人達です。私の語学学校は、そのウクライナ人全員が戦争から避難してきた方々で、その殆どが女性の方々です。その他にも学校には、アフガニスタンからタリバン政権から逃れるために、難民としてやって来た人たちも数名います。私の隣に座るトルコ人の男性は、トルコで反政府の政治グループに属していた為に、弾圧を受けドイツに亡命してきた方です。今まで、平和な日本やイギリスで過ごしていた私にとって、彼らの経験話にはとても衝撃を受けました。

私たちの子供達は、もう新しい学校にも慣れてきているようです。長男は、以前からドイツ語が出来たので、少し安心して見ていました。でも、長女の方は全然喋れなかったもので、少し心配していましたが、今ではドイツ語はある程度喋ることもできるようになり、新しい友達ができたようで安心しています。私も負けないように早くドイツ語を喋れるように頑張らないといけません。今年で私も40歳になります。まさか40歳になってこんなチャレンジをするなんて思いもしませんでした。でも、貴重な経験をしていると思いながら頑張りたいと思います。



ウェールズでの家族旅行です。



学園だより



●同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。コロナも5類となり、少しずつ日常が戻りつつある母校の「今」をお届けいたします。

ナイツ フェスティバル

〔令和4年9月〕

コロナの第8波真っ直中、今回も午前中のみ、生徒だけの活動となりました。それならば……ということので、7月に実施できなかった「コルベアワー（平和学習）」と合わせて、「原点に立ち返る」機会となりました。

校外の団体との交流やICTを利用した取り組みとして、長崎純心大学の学生の「エディットシユタインとコルベ神父」の講演、広島県福山市の「ホロコースト記念館のオンライン見学」、「アンネ・フランクパネル展」など、「コルベ神父」や「アンネのバラプロジェクト」について、生徒が校外の方とのつながりの中で、本校について学びなおす機会となりました。保護者や同窓生の皆様にも、ぜひ見ていただきたい盛りだくさんの内容でした。来年こそは、皆様にもご参加いただけることを、楽しみにしております。

コルベアワー！ ツリー点灯式

〔令和4年12月〕

12月の「コルベアワー」（奉仕活動）も、訪問しての奉仕活動ができなかったため、オンライン交流となりました。感染拡大が続く中で、直前まで実施できるかどうかかわからない状況でしたが、1年生を中心に施設利用者の方々と和やかに交流することができました。



同窓会の皆様、今年もクリスマスケーキをありがとうございました！



また、今年度も「ツリー点灯式」には、同窓会の皆様からのご支援で、ケーキをいただきました。男子高校生も笑顔になるかわいらしくて、おいしいそうなケーキとコアで、クリスマス気分を味わいました。

ケーキをいただいた後は、玄関前で「ツリーの点灯」です。キャンドルの灯に普段味わうことのない儼かな雰囲気となりました。



omnis-オムニスー 共同担任制始まる

〔令和5年4月〕

※「omnis」とはラテン語で「みんな」という意味です。

少人数教育という本校最大のメリットをさらに活かすために、「共同担任制」をスタートしました。これまで一人の担任の視点で見ていた生徒を、様々な角度から様々な教員が多面的に関わることで、生徒が個性や能力をこれまで以上に発揮し、学年を超えたつながりを持ち、コミュニケーション能力を高め合うことを目指します。

具体的には、左記の図のように、学年を超えた縦割りのグループをつく

担任	A先生	B先生	C先生		担当 (チューター)
	↓	↓	↓		
生徒	1年	2年	3年		
Aグループ	○名	☆名	◇名	←	A先生担当
Bグループ	○名	☆名	◇名	←	B先生担当
Cグループ	○名	☆名	◇名	←	C先生担当
Dグループ	○名	☆名	◇名	←	D先生担当
Eグループ	○名	☆名	◇名	←	E先生担当

り、授業以外の活動をこのグループで行います。グループに担当（チューター）がつかます。

日々の掃除や、遠足などの行事をこのグループで行っていますが、新入生もグループの先輩のおかげで、高校生活に入りやすかったようです。また、上級生も後輩を指導することで、自覚が出てきたようです。生徒一人ひとりが、本校での高校生活を通して、「神の似姿」としてつぐられ、神に愛されている存在だと実感できる学校でありたいと考えます。

CM・ポスター ご覧いただけましたか？ 〔令和5年6月〕

六月中旬からNCC長崎文化放送で放映されている本校のCM、見ていただけましたか？ また教会やバス、店舗など、様々な場所で、本校のポスターやチラシをご覧になった方もいらっしゃると思います。

このCMやポスターは、生徒募集により一層力を入れるため、同窓生の方にお願ひし、新たに作成いたしました。ポスター・チラシともすべて本校の生徒です。（モデルではありません。慣れないことで緊張しつつも、

何度もジャンプしたり、ポーズをとったり、長い時間をかけて撮影しました。また、同窓会の皆様には、多大なご協力をいただきました。ありがとうございました。

この後、10月21日（土）には「秋のオープンスクール」、そして、いよいよ入試の時期となります。ご家族はもちろん、お知り合いなどに声をかけていただき、ぜひ本校受験をお勧めくださいますよう、お願いいたします。

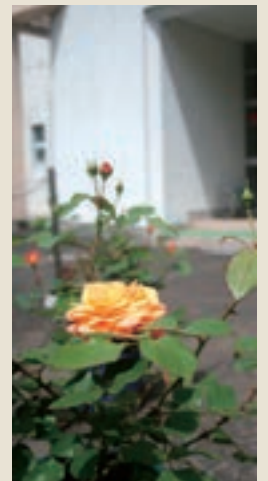
いっしょはぶいっしょ？



④ 現在講堂として、使用しています。始業式・終業式や合同朝礼、行事の際には全校生徒がここに集まります。講堂として使用を始めてから10年以上になりますが、ここは……？



⑤ 寮生の皆様には、大切な憩いの場「休憩室」です。（その前は売店や自習室だったことも）畳の部屋でテレビを見たり、マンガ本を読んだり、たまに通りかかると、教室とは違うリラックスした姿を見かけたものでした。休憩室の時から使っていたエアコンは、昨年まで現役でした。ちなみに、こちらは休憩室を出てすぐ、こわい寮長室の隣の「上下するレトロな黒板」があった教室です。かつて中学生が使っていたこの教室は……以前のままでしたが、「レトロ黒板」の前に、最新式の「電子黒板」があります。もちろんどちらも使っています。こういった共存も本校らしさでしょうか。



⑥ 体育館前は変わっていませんが、今年の春は一段と華やかでした。この美しいバラは……？

⑦ これまで何度かご紹介した「アンネのバラ」です。今年の5月ごろには、見事な花を咲かせました。兵庫県西宮市の「アンネのバラの教会」より、寄贈いただいた6株と合わせて、生徒のバラ委員も頑張って水やりなどの手入れをしています。同じ株でも、咲く時期によって微妙に花の色が変わる不思議なバラです。



最近海外からの巡礼の方も増え、ルルドに行く途中、このバラの香りを楽し

んだり、写真を撮っていらつしやいます。※同窓生の皆様、お近くまでお越しの際には、ぜひ母校にお立ち寄りください。お待ちしております。

（教頭 千住由貴子）

助祭叙階おめでとう！

外山 祈 君

(あきら)

人はその友と教師
によって研磨される

ある司祭叙階を見つめつつ、今一度自分の歩んで来た召命の道を振り返ると、やはり修道者としても聖職者としても、コルベ志願院と聖母の騎士高校が自分の原点であると

「司祭になりたい」。初めてそう思ったのがいつだったのかは、よく覚えていません。幼児洗礼で、子供のときから教会に通うのが当たり前という生活。小学校4年生のときにコンベンツアル会が担当する小教区に籍を移し、よい司祭やブラザーとの出会いもあったのでしよう、「司祭職」は自然と自分の「進路」の選択肢に入っていました。

中学生の時分、ご多分に漏れずアイデンティティ・クライシスを体験しましたが、その中で「司祭職の道に進みたい」という思いが明確になりました。そして2005年、小神学生として聖コルベ志願院の門を、新高校生として聖母の騎士高校の門を叩いたわけです。助祭叙階を受けた今、更に一歩先に



改めて思います。旧約聖書の「箴言」には「鉄は鉄をもって研磨する。人はその友によって研磨される」(27章17節)という言葉があります。ここに「教師」を加えて、「人はその友と教師によって研磨される」とすれば、私自身の3年間の生活を見事に言い表してくれるのです。叙階の恵みを受けた今、お世話になった先生方と友人達の顔を改めて思い浮かべています。先生方からは色々なことを教えて頂き(逆らったこともありますが)、陰に陽に支えて頂き、友人達とは共に学び、活動し、語り合い、議論し、そしてふざけあつて、気づかぬうちに研磨して頂きました。「当時の自分には少し『研磨しづらい』部分もあったかな」という申し訳なき(そして「でも、それはお互い様だよな」という開き直り)もありつつ、自分と出会って研磨してくれた人達への感謝の気持ちで一杯です。

私の召命の歩みにとってかけがえない「場」である聖母の騎士高校に感謝しつつ、母校が「地の塩、世の光」として更なる発展を遂げられますよう、お祈り申し上げます。

※本原稿は昨年掲載予定でしたが、編集者の手違いで今年になってしまいました事をお詫び申し上げます。

目醒めよ 君の中の少年よ

君の中の少年を、もう一度目醒めさせよう。
答えは、聖母の騎士にある。

自分の夢に、もつとわがままに。
大人になることを急ぎすぎないか。
少年から大人になる高校生なのだから、まだ少年の部分は無くさなくてもいい。

OPEN SCHOOL 2023. 7/15(土)・10/21(土)

学校見学会

2023. 8/5(土)・9/2(土)・9/16(土)・10/7(土)・11/4(土)・11/18(土)・12/2(土)

聖母の騎士高等学校

〒830-0012 長崎市本町92丁目2番2号 ☎095-823-4323 ☎095-823-4759
https://www.stmotherknight.edu.jp/

目醒めよ 君の中の少年よ

君の中の少年を、もう一度目醒めさせよう。
答えは、聖母の騎士にある。

「君の人生、君が主人公だ」とみんな言うけれど、言葉だけを自分に言い聞かせて、実は、誰かの脇役に甘んじてはいないか。
主人公よりも、もつと主人公に。

OPEN SCHOOL 2023. 7/15(土)・10/21(土)

学校見学会

2023. 8/5(土)・9/2(土)・9/16(土)・10/7(土)・11/4(土)・11/18(土)・12/2(土)

聖母の騎士高等学校

〒830-0012 長崎市本町92丁目2番2号 ☎095-823-4323 ☎095-823-4759
https://www.stmotherknight.edu.jp/

事務局より

●同窓会奨学生

今年度の申し込みはありませんでした。

●Xmasケーキをプレゼント

昨年で3回目になりますが、例年通り生徒、教員のほか、学園に関わる方たち全員にショートケーキをプレゼントしました。経費は、勿論皆様からの会費です。ありがとうございます。

●ミニだより

▼マリア！マリア！は聖母の騎士でいただいた挨拶の習慣です。今も私たちの宝です。マリア！

▼いつもありがとう。

春日市 吉川信雄
鹿児島市 安田 誠

▼同窓会会長、竹内松雄様のご逝去を知り、永遠の安息をお祈りしています。

寝屋川市 萩原儀一

▼いつも同窓会誌ありがとうございます。貴校が益々発展しますように。

諫早市 松尾豊樹

▼長らくお世話になりました。磯辺浪男の妻の則子と申します。浪男は二〇二二年二月十日に永眠いたしました。皆様の今後のご活躍をお祈り申し上げます。

池田市 磯辺則子

▼「英彦の泉」、愉しく読ませていただいております。

東京都 阿部正人

▼このたび引越しました。

鹿嶋市 田辺久義

▼いつも楽しく拝読させていただいています。ありがとうございます。昨年との二年分です。

奄美市 池田尚志

▼同窓会には参加したいと思っています。

長崎市 高見正明

▼熊川先生お疲れさまでした。「英彦の泉」、楽しく読んでいます。

桶川市 斎藤 優

▼今年も「英彦の泉」ありがとうございます。

さいたま市 白濱 明

▼いつもありがとうございます。

五島市 熊川博昭

▼「英彦の泉」愉しく懐かしく拝読しています。感謝の中に

鹿嶋市 平松 弘

▼「英彦の泉」楽しみに読んでいます

鎌倉市 平松 壽護

▼一部は少額ですが奨学金にでも加えてください。

東京都 川口雄二

▼いつもありがとうございます。これからも宜しくお願い致します。

堺市 竹口良巳

▼何年分かわからなくなりました。

五島市 峰 重昭

令和5年度総会・懇親会

コロナウイルスの影響も下火になりましたので、今年度は以下のとおり実施の予定です。但し、急遽中止の可能性もありますので、その際は参加予定者に連絡いたします。

開催日 2023年10月28日(土)
御ミサ 16時00分～(コルベ記念館)
総会 17時30分～
親睦会 18時00分～20時
会費 3,000円
★申込期限は10月14日(土)です。



●申し込みは下記の何れかで！

郵送：〒850-0012 長崎市本河内2-2-2
聖母の騎士高等学校「同窓会」係

FAX: 095-823-4759

Eメール: marys-knights-union@ymail.ne.jp

※氏名のほか、①住所 ②電話番号 ③メールアドレス ④卒業年度をお忘れなく。

摘要	収入	支出
前年度繰越金	1,202,014	
会費	296,000	
寄付	167,000	
同窓会入会金	18,000	
会費納入用の振込用紙		12,220
同窓会奨学金		121,760
令和4年度卒業アルバム援助金		60,000
会報印刷代		247,500
会報送料		81,797
聖コルベ記念館使用料(理事会)		4,000
通信費		2,920
会議費		1,930
事務用品		635
検定合格者報奨(図書カード)		1,000
クリスマスケーキ		19,788
慶弔費		41,800
卒業記念品		5,400
合計	1,683,014	600,750
残高		1,082,264

令和4年度決算報告書

摘要	収入	支出
前年度繰越金	1,082,264	
年会費	270,000	
寄付	150,000	
同窓会入会金	30,000	
同窓会奨学金		120,000
会報印刷代		250,000
会報送料		85,000
通信費		6,000
各種検定取得報奨(図書券)		30,000
クリスマスケーキ		20,000
卒業記念品		10,000
聖コルベ記念館使用料(理事会)		8,000
会議費		3,000
予備費		100,000
合計	1,532,264	632,000
次年度繰越金		900,264

令和5年度予算計画書

聖母の騎士学園同窓会

(令和5年度 本部役員名簿)

会長	赤本喜代次	顧問	崎濱宏美
	窄口富行		木場田友次
副会長	大石 諭		
	滝元 敦	事務局	熊川武俊
書記・会計	小島正人	会計監査	松下昭征
理事	里脇岩男 / 川村隆公 / 宮城信愛		
理事会会場：聖コルベ記念館			
事務局本部：聖母の騎士高等学校			

▼「英彦の泉」毎年、楽しみに拝見しております。コロナ禍で大変ですが、又、皆様と会える日を楽しみにしております。

長崎・時津町 宮崎謙一郎

▼大変おそくなりました。すみません。

大島郡 森永勇作

編集後記



今年は、住所が判明している711名の方に、この会報を送送しています。住所異動等で毎年会報が返送されてきますが、多い時はその数50通ほどの時があります。10年ほど前は870通ほど送っていた記憶があります。住所不明や亡くなった方もおられることが發送数減に繋がっている事もありますが、もっと大きな要因は、近年の本校の卒業生数減・入学生数減にあります。長崎県では、毎年、中規模の中学校が一つ無くなってしまいう規模で中学生の数が減少しています。この少子化の影響は、当然本校にも切実に及び、先生方の懸命の生徒募集にも拘らず、十分な生徒確保は難しい状況です。現場の先生方は、授業とその準備、様々な雑用などをこなしながら、各自4～5の中学校を担当して市内、及び近郊の中学校を毎年3回ほど訪問して生徒募集活動をしています。これは、延べ数で12～15回ほど学校訪問をしている事になります。学校訪問は、基本的に相手側の都合に合わせますので、主に放課後、或いは授業の空き時間集中することが多いのですが、中には、「この忙しい時に……」など、嫌な顔をされるのもしばしばで、本当にストレスが溜まっていた事を覚えてい

ます。

母校の教育の特徴は、一人一人の生徒を大切に、手厚い指導をすることだと思っています。これは、本校へ入学した生徒たちの多くが実際に感じ、口にすることです。本校の良さを存じのOBの皆様、高校進学を控えている中学生を存じであれば、母校を薦めて頂ければと思います。百万円の寄付よりも一人の生徒の入学の方が、きっと母校の為になると思います。

今回、原稿依頼をさせて頂いた方の数は約20名で、そのうち1名の方が寄稿してくださいました。「英彦の泉」も、今回が27号となりましたが、長崎本部、関東、奄美の各支部も、いつも同じ人をお願いするしかないか、各地区の事務局担当者自身が書くしかないような状況です。また、学園便りは、多忙を極める千住教頭先生にお願いして編集して頂いています。本当にありがたく思いながら、これで良いのかな?とも思いつつ、ミニ便りで頂くお礼の言葉を励みに編集を担当してきましたが、そろそろ転換期かな?と感じています。この会報が届く頃は、まだまだ暑いのでしょうか。皆様、お体ご自愛ください。

(くまがわ)

※昨年発行の第26号13ページにおいて、「大石諭さん」を「松石諭さん」と誤って掲載しておりました。お詫び・訂正させていただきます。
《聖母の騎士社》

2024 [令和6]年度 小神学生募集

中学1年生、高校1年生を若干名募集します。



召命祈願ミサの時に、若い神父様は自分がどうして司祭になったのか、話してくれました。

笑いあり、涙あり、そして感動する物語。「決して自分の意志だけではない、大きな神様の導きによるその物語」には、自分だけの物語にして行きたい大きな魅力が隠されていました。



コンベンツアル聖フランシスコ修道会
聖コルベ志願院
聖母の騎士修道院(李(リー)神父)まで

〒850-0012 長崎市本河内2-2-1 [聖母の騎士修道院内]
TEL) 095-828-0541 / FAX) 095-820-3754
Eメール: ofmconvjp@gmail.com